

日野郡農林業の概要



平成25年10月

鳥取県西部総合事務所
日野振興センター日野振興局

表紙写真：

水稻（江府町H24.9.5撮影）と「日野郡の米」ロゴマーク（H23年日野郡産米レベルアップ推進協議会製作）

目次

	ページ
1 農業マップ	1
2 林業マップ	3
3 農業の現状と取組	
(1) 就農構造	5
(2) 担い手の状況	6
(3) 土地利用の状況	7
(4) 農業基盤の整備状況	7
(5) 主な農畜産物の生産販売状況	8
(6) 特別栽培農作物等の取組状況	11
(7) 鳥獣被害と対策	12
【参考データ】 農業産出額及び生産農業所得	13
4 森林・林業の現状と取組	
(1) 日野郡の森林の現状	14
(2) 間伐の推進	15
(3) 木材価格の推移	16
(4) 地域材の供給	14
(5) 森林路網の整備	17
(6) しいたけの生産	18
(7) 日野郡内の原木の流れ（資料1）	19
5 日野総合事務所農林関係担当課	20

1 農業マップ



【夏秋トマト】
 冷涼な気候を活かした美味しいトマトが生産されている。中古ハウスの有効活用、販売対策等を積極的に行っている。
 新たに平成23年は5名、平成24年は1名の農業研修生が、研修を終えて栽培に参入している。(日南町)



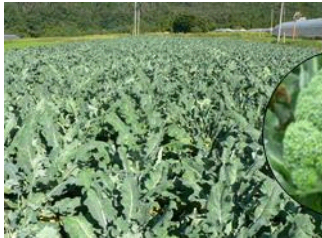
【日野郡の米】
 日野郡はおいしい米の産地として知られる。「米・食味分析鑑定コンクール：国際大会」の都道府県部門内での金賞受賞者あり
 郡内では、さらにおいしい米を作る方法の研究に取り組むグループ等が立ち上がっている。



【直売所から始まる地域活動】
 学校給食への農産物供給など、地産地消活動の拠点となっている。
 (江府町 みちくさ)



【奥大山ブルーベリーファーム】
 西日本でも最大規模の観光農園として知られ、6次産業化(農業者が加工品の開発・販売等をする)も進めている。(江府町 笠良原地区)



【ブロッコリー】
 県西部産地のリレー出荷の中で、冷涼な気候を活かし、比較的高温期の出荷が期待されている。



【そば】
 郡内各地でそばの栽培が盛んに行われ、土地利用型作物として重要な位置づけとなっている。



【夏秋ピーマン】
 冷涼な気候を活かし、夏秋ピーマンの栽培が行われている。



【日南高原朝どれ野菜生産部】
 少量多品目の新鮮な野菜や山菜を持ち寄り、岡山県方面のスーパーマーケットに直送している。



【江府町のコンニャク栽培】
 中山間地域の新たな作目としてコンニャク産地づくりに取り組んでいる。



【白ネギ】
 冷涼な気候を活かした夏ネギ栽培がさかんである。栽培経験の浅い生産者を対象に栽培基礎講座を開催している。



【地域産物を活用した加工品開発】
 農山村の資源や伝統を活かした加工品づくりがさかんである。

加工の目玉は鈴原糯(すずはらもち)。栽培しにくい品種だがモチ質は抜群！(日野町 大夢多夢)

地域特産品のトマトを使ったトマトジュースは、定評あり！(日南町)



【和牛放牧場】
 5月～10月にかけて和牛の放牧により、和牛農家の手間が減り、牛の健康も増進されている。

2 林業マップ



【日野川の森林木材団地】
日野川流域の総合木材流通加工拠点。(株)オロチ、(株)米子木材市場、山陰丸和林業(株)が進出。
(日南町下石見)



【日野川流域材の活用】
地元のスギを使用したLVL(単板積層材)製造工場が完成。H20.4から操業開始した。
(日南町下石見 (株)オロチ)



【森林環境保全税の活用】
放置され手入れができていない森林を強度間伐し、公益的機能の回復を行っている。
(日野町下菅)



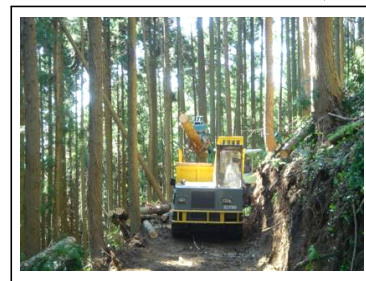
【とっとり共生の森】
○天然水の森 奥大山(江府町)
…サントリー(株)
○ごうぎん希望の森・奥大山(江府町)
…山陰合同銀行
○とっとり日通の森(日南町)
…日本通運(株)
県・市町村が企業と地元の架け橋となってきた共生の森において、森林の保全活動、体験学習を行っている。
(江府町御机 サントリー(株))



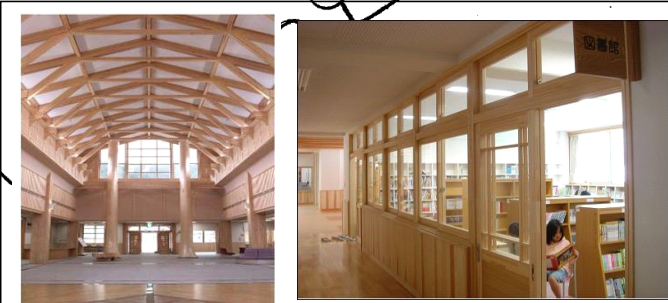
【公共事業での木材利用】
木材の需要拡大のため、行政が率先して木材を使う工夫を行っている。林道では法面の草抑えとして利用している。
(日南町上萩山林道窓山線。左は(株)オロチが排出する剥き芯を利用。)



【板井原県有林】
537haの森林。森林認証(SGEC)をH16年に取得し、環境に優しい施業を実践。H22にカーボンオフセットを推進するため「鳥取県県有林J-VERプロジェクト」の認証を受け、企業等に販売している。
(日野町板井原)



【低コスト林業モデル団地】
施業の団地化、路網の高密度化と崩れにくい作業道を組み合わせ、伐採搬出コストを削減するためのモデル的取組みを行っている。
(日南町下石見)



【日南町庁舎・日南小学校】
地域で生産・加工された木材を使用した木造公共施設。地域材利用のシンボル。日南小学校には(株)オロチのLVL使用。
(日南町霞)



【林道の整備】
宝仏山及び窓山周辺の森林整備を進めるため林道を開設している。完成した林道は、森林に親しむ道としても広く利用されている。
(日野町金持)

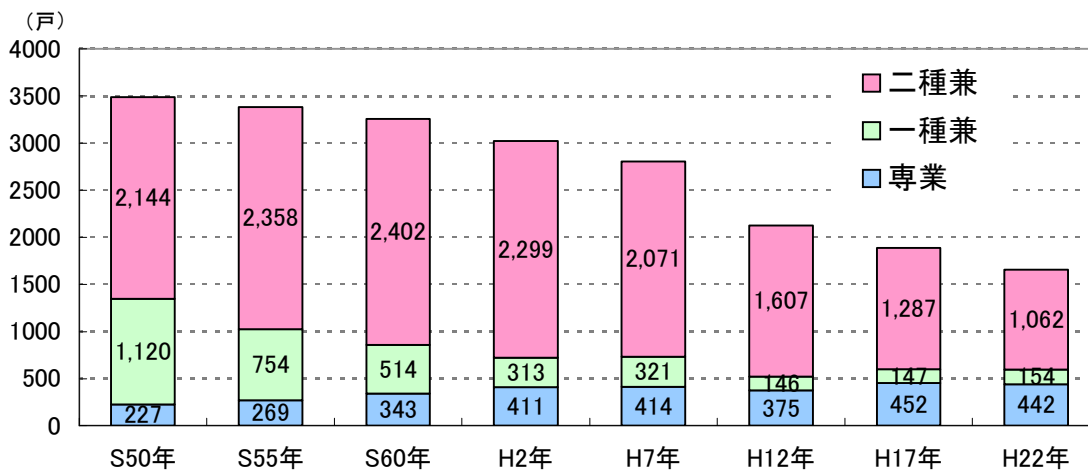


【竹炭・竹酢液の生産】
地域の資源である竹を有効活用に取り組んでいる。H18年には県内初となる木竹酢液認証協議会の品質認証を取得している。
(江府町柿原 柿原炭生産組合)

1 農業の現状と取組

(1) 農業の就業構造

日野郡専業兼業別農家戸数の推移

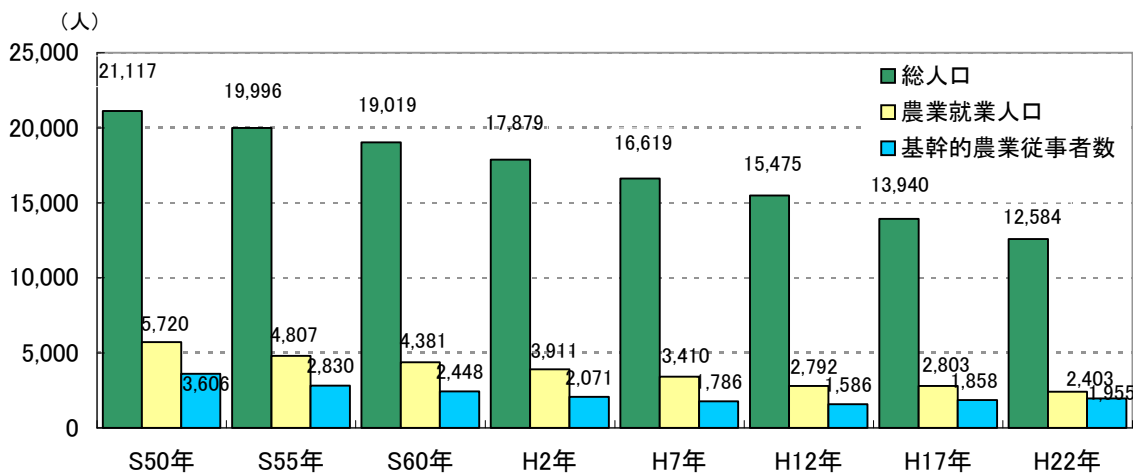


出典：農林業センサス

農家戸数は年々減少しているが、専業農家数は増加している。

《参考》

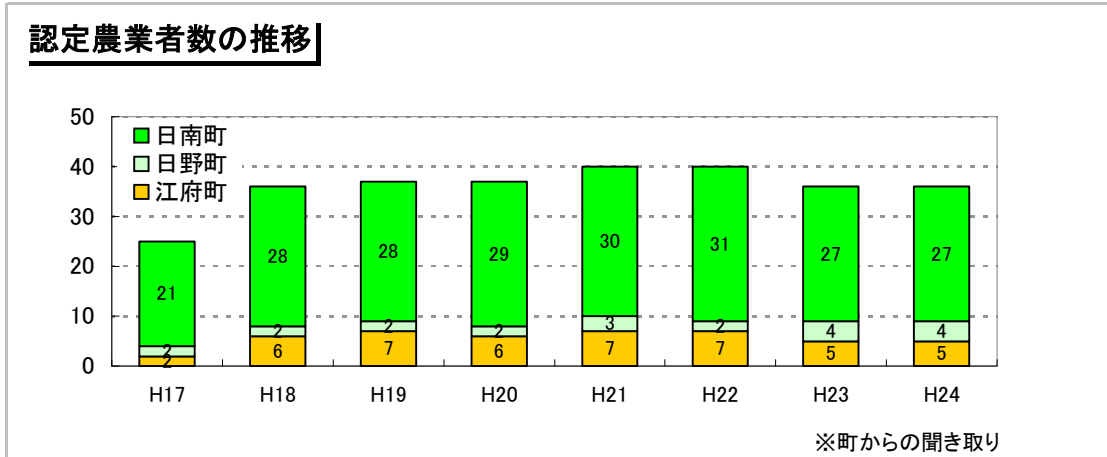
日野郡の総人口、農業就業人口、基幹的農業従事者数の推移



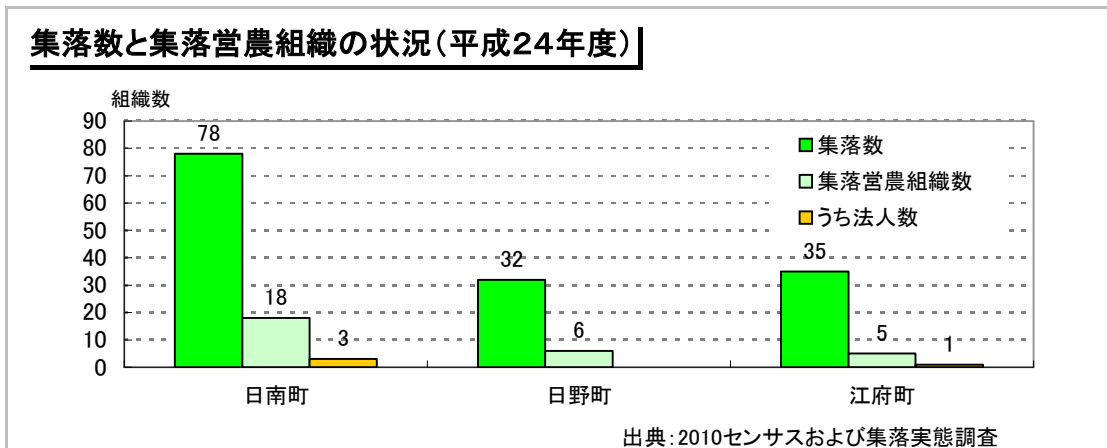
出典：農林業センサス及び鳥取県勢要覧

注1) 農業就業者人口とは、自営農業従事者のうち、農業が主である者(兼業で農業が主である者も含む)をいう
 注2) 基幹的農業従事者数とは、農業就業人口のうち、ふだん仕事として農業に従事している者をいう

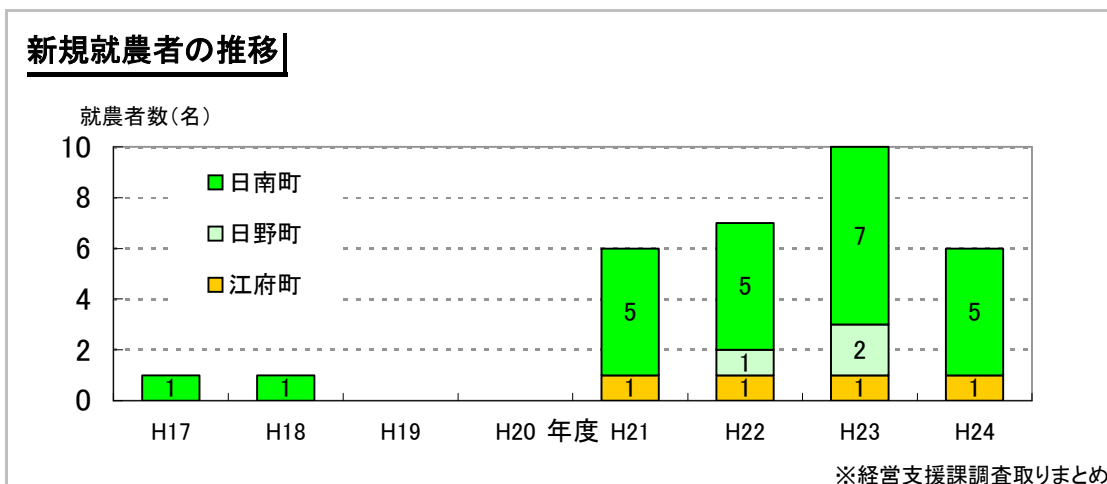
(2)担い手の状況



○ここ数年は郡内3町の認定農業者数は、高齢化により再認定を見送る者の数と新規認定者の数の差が小さく、ほぼ横ばいとなっている。



○郡内3町の集落営農組織数は少ない。近年は集落営農組織からの法人化を検討する動きがある。



○平成24年度の新規就農者数は日南町が5名(うち法人等就業者3名)、江府町1名(うち法人等就業者1名)の6名となっている。

○新たな就農形態としてIJターンによる就農がみられる。

【参考】

○日南町においては、平成21年度から地域振興公社(平成25年4月1日から「一般財団法人エナジーにちなん」へ解散再設立)が主体となり2年間の農業研修制度を開始。

平成21年度: 8名研修 ⇒うち7名が平成23年度より就農。

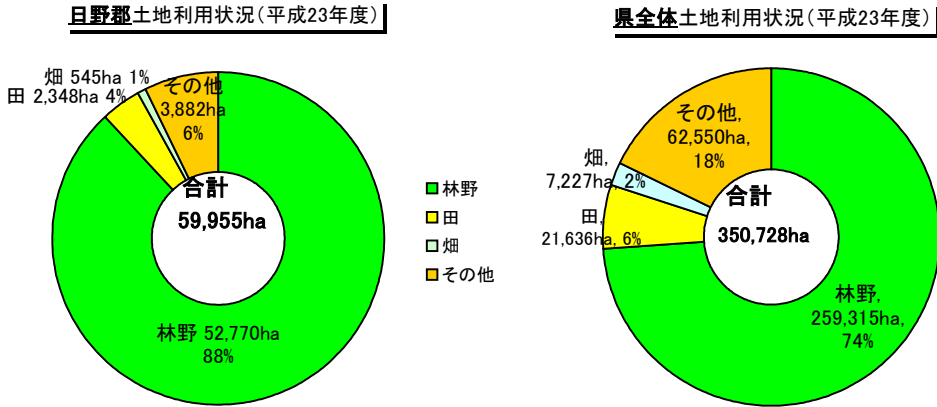
平成22年度: 3名研修 ⇒うち1名が平成24年度より就農。

平成23年度: 1名研修

平成24年度: 3名研修 ⇒うち1名が平成26年度より就農予定

(3)土地利用の状況

林野率は88%と、県の74%に比べて高い。

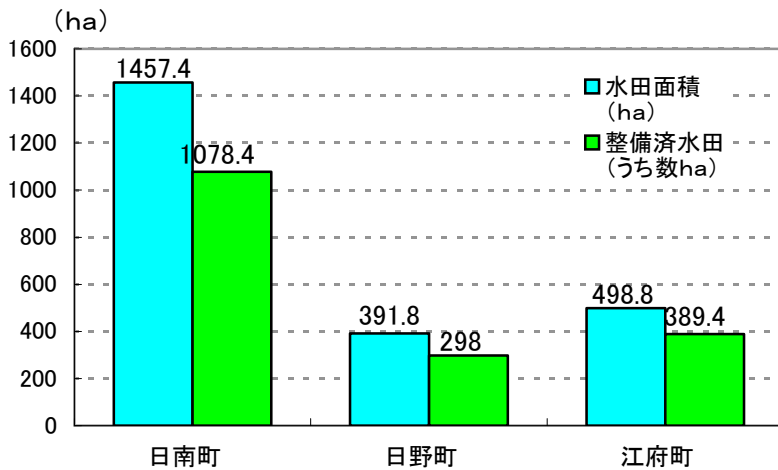


出典:鳥取県林業統計、ほ場整備率調査

(4)農業基盤の整備状況

日野郡の水田整備率は、日南町73%、日野町76%、江府町78%であり、県平均(83%)を下回っている

農振農用地の水田面積と基盤整備状況



出典:平成23年度ほ場整備実施状況調査

(5) 主な農畜産物の生産販売と取り組み

ア 水稻

【栽培面積・集荷量】

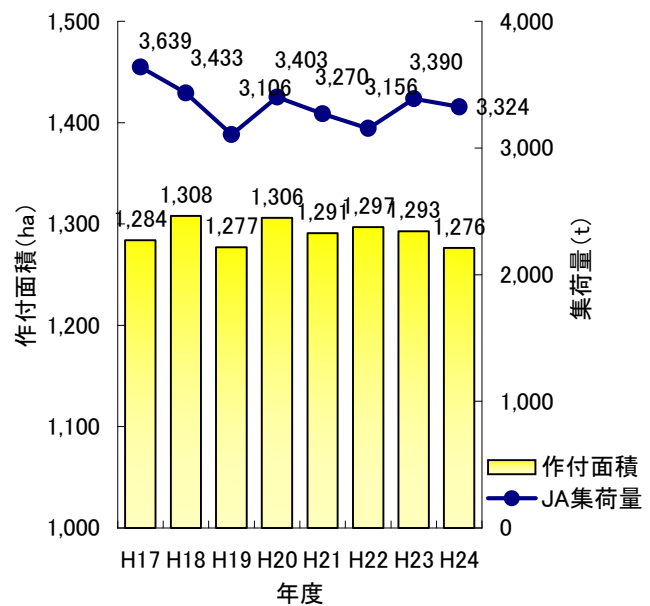
日野郡では約1,300haの作付けがあり、3,100～3,400tがJAに集荷されている。

【生育状況・作況】

平成24年度は、田植直後は日照不足だったが、その後多日照で順調に生育し、出穂期は早まった。

作況指数（平年＝100）は102（県作況指数103、全国作況指数102）となった。

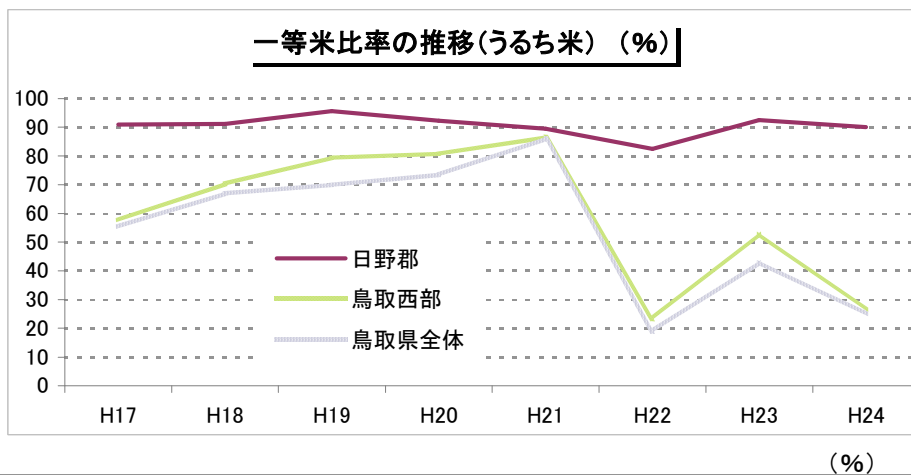
水稻の作付面積とJA集荷量の推移



※(集荷量)はJA鳥取西部資料、(作付面積)は農業振興課調査結果より

【1等米比率】

平成24年度の1等米比率は高温障害により県内の比率が低下するなか、日南町91.9%、日野町73.9%、江府町89.7%と高い水準を維持している。(県平均25.0%)



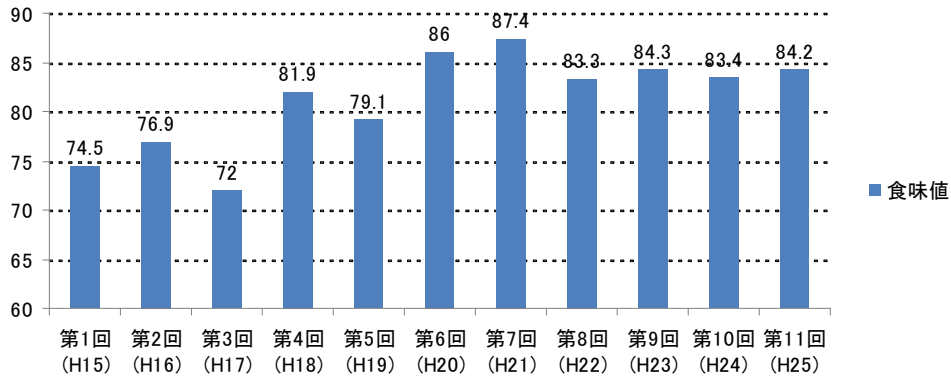
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
日野郡	91.0	91.2	95.6	92.2	89.5	82.5	92.5	90.0
鳥取西部	57.7	70.3	79.4	80.7	86.5	23.3	53.0	26.4
鳥取県全体	55.4	67.0	69.9	73.5	86.0	19.0	43.0	25.0

※農林水産省農産物検査結果及び日野郡産米改良協会総会資料より

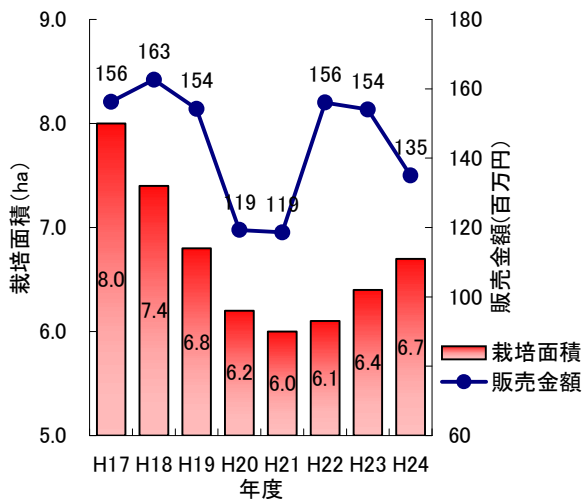
【食味値向上の取り組み】

日野郡の特徴である「おいしいお米」をさらにレベルアップさせるため、平成15年から日野川源流米コンテストを開催。コンテストにおける平均食味値は年々向上しており、良食味米の生産技術が定着しつつある。

日野川源流米コンテスト平均食味値



トマトの栽培面積と販売額の推移



※JA鳥取西部資料より

ウ 白ねぎ

【栽培面積・販売額】

平成24年度は日南町6.5ha、日野町3.7ha、江府町4.9ha栽培された。

販売額は平成23年は秋冬ネギの他産地との競争による単価安、平成24年は夏の猛暑による収量減の影響等により減少した。

【産地の取り組み】

平成24年度、鳥取西部農協中心に白ネギを振興するプランが作成され、生産者の確保や作付け拡大の取り組みが新たに始まった。

イトマト

【栽培面積・販売額】

郡内では日南町と江府町で主に栽培されており、栽培面積では日南町が約9割(5.7ha)を占めている。

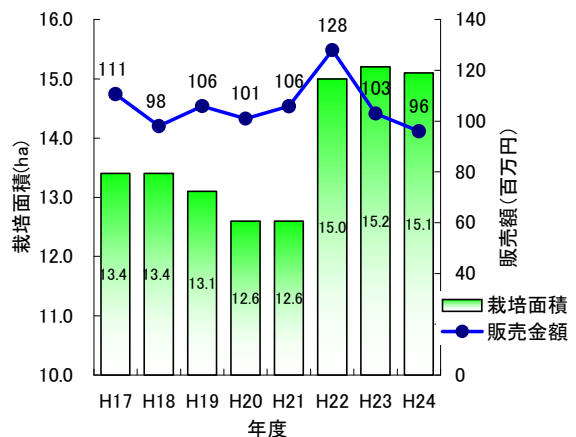
生産者の高齢化により減少し続けていたが、平成23年度から新規就農者が加わったことにより、増加に転じている。

平成24年の販売額は単価低迷等により前年より減少した。

【産地の取り組み】

日南町では、平成23年度に選果場が再整備(色彩選別機導入)された。

白ねぎの栽培面積と販売額の推移



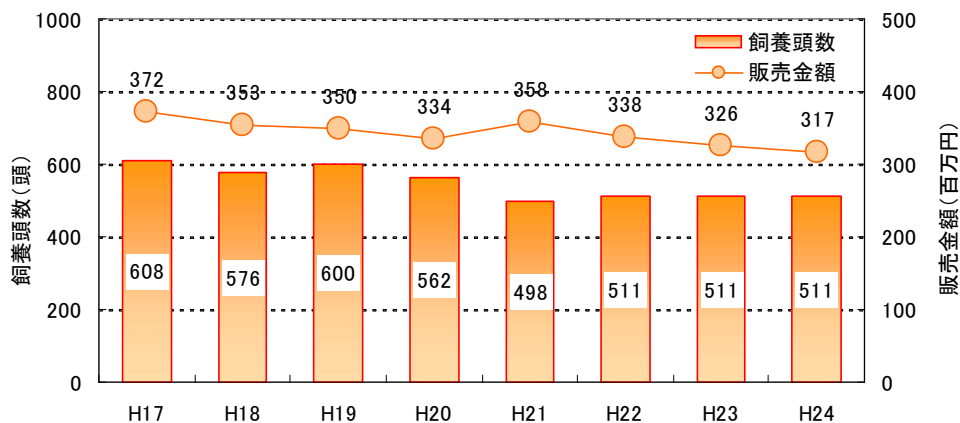
※JA鳥取西部資料より

エ 乳用牛（牛乳）

生乳は、平成17年から全国的に生産過剰基調となり、平成18、19年と生乳の減産となる生産調整が実施され、日野郡内の飼養頭数は減少し、平成20年に入って生産調整は解除されたが、現在も回復には至っていない。

近年の飼養頭数は511頭で安定しているが、搾乳可能な成牛頭数の減少に伴う乳量減により販売額は減少している。

乳用牛（牛乳）の年次推移



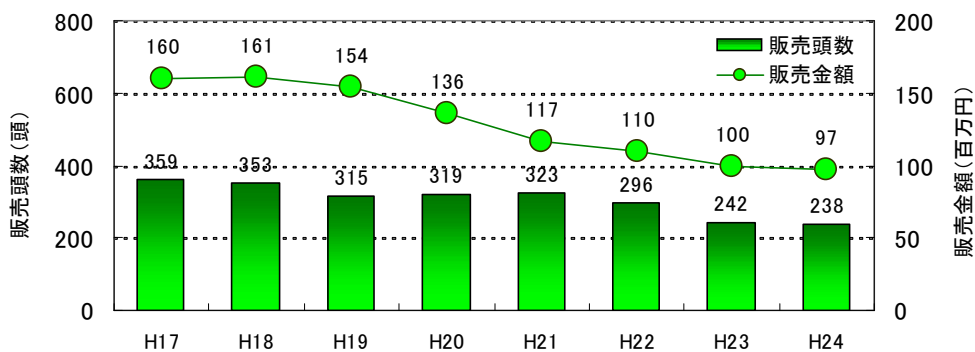
オ 和牛子牛

日野郡内では、平成13年から取り組んだ優良雌牛導入事業の成果により牛群改良が進み、さらに全国和牛能力共進会が県内で開催された影響もあって、子牛の販売単価は高値で推移してきた。

平成20年の後半からは、景気の後退を反映して価格が低下していた。

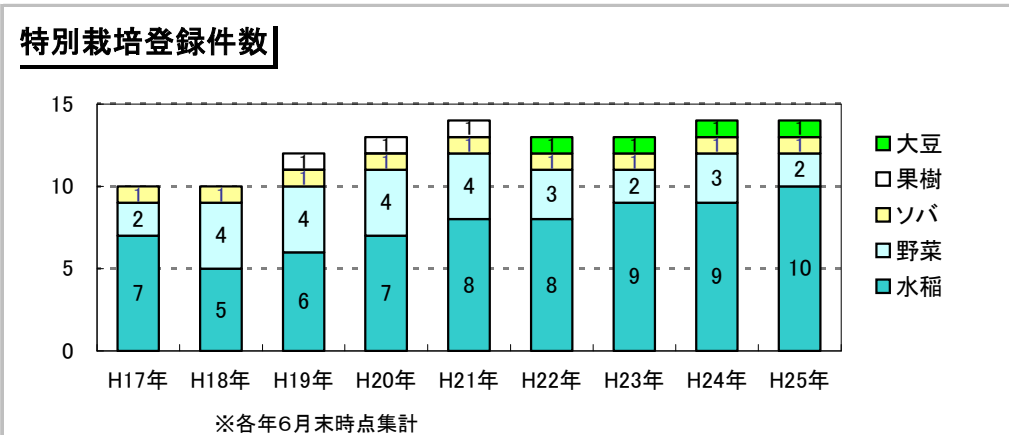
平成22年以降は宮崎県の口蹄疫及び東日本大震災の影響により、全国的に素牛不足が続いており、販売頭数は減少しているが年間を通して安定した価格で推移している。

和牛子牛の年次推移

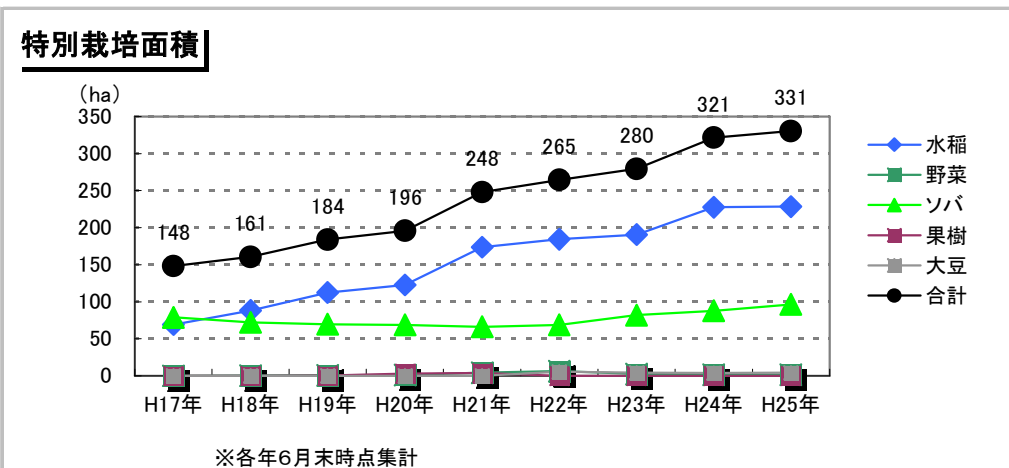


(6) 環境に優しい農業の取り組み状況

① 特別栽培農産物

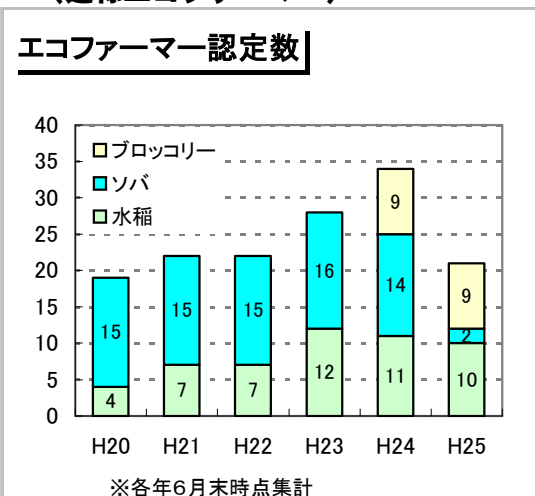


鳥取県特別栽培農産物登録件数は、年々増加してきたが、水稲及びソバについては生産者組織の申請もあるため、ここ数年は横ばいとなっている。



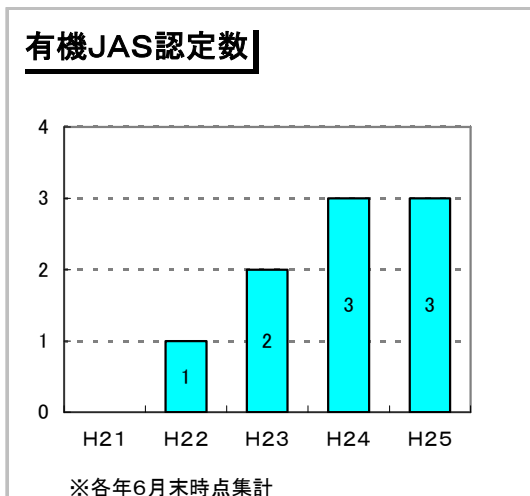
水稲面積の伸びに伴い、取組面積は年々増加している。

② 持続性の高い農業生産方式に関する計画 (通称エコファーマー)



近年増加していた認定数は、ソバを中心に再認定が進まなかったため、H25は減少することとなった。

③ 有機JAS認定

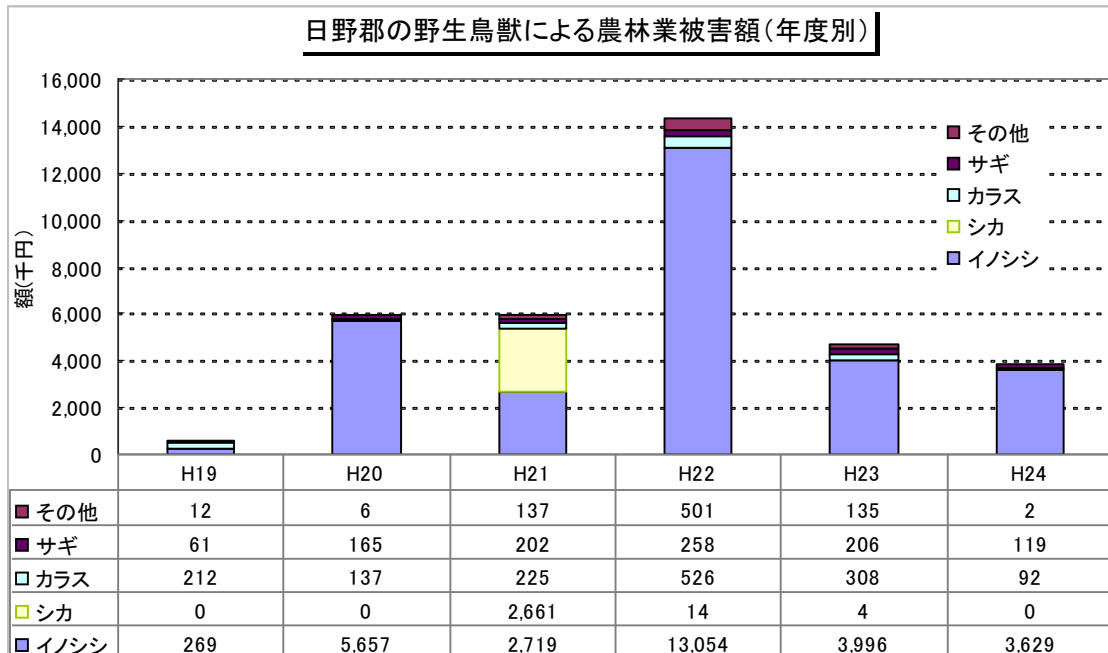


H25は3名の生産者が水稲、エゴマ、野菜等で認定を受けている。

(7) 鳥獣被害と対策

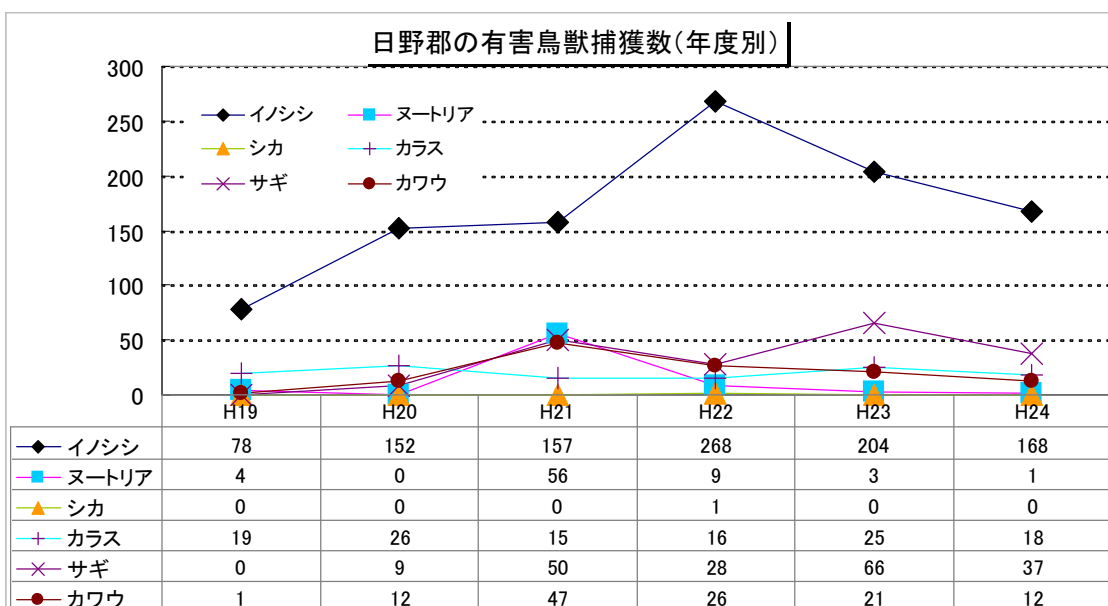
ア 被害額

日野郡内の野生鳥獣による農作物被害額は、H20以降約4,000～6,000千円であるが、H22は急増し14,000千円であった。被害のほとんどはイノシシの踏み倒しによる水稲の被害が占めている。



イ 有害捕獲許可による捕獲数

イノシシの捕獲数はH19以降増加し、H22は268頭と近年では最も多かった。ヌートリアもH21の56頭捕獲をピークに、捕獲数は減少している。

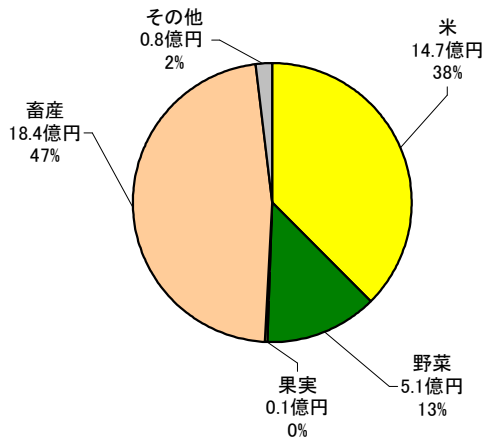


(参考データ) **農業産出額及び生産農業所得**

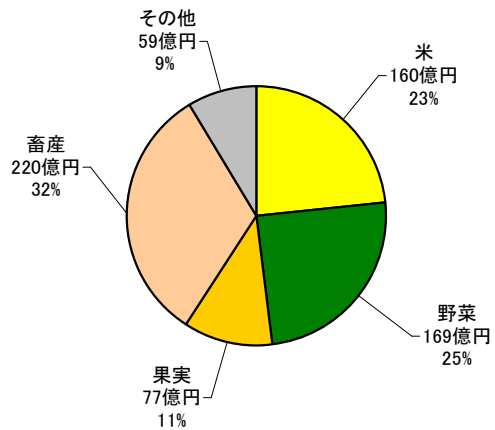
	農業産出額(上段:億円、下段:%)						生産農業所得			
	米	野菜	果実	畜産	その他	合計	合計 (億円)	農家1戸当り (千円)	耕地10a当り (千円)	
平成16年 (日野郡)	14.9 (34)	6.7 (15)	0.1 (0)	21.1 (48)	1.6 (4)	44.4 (100)	14.2	548	52	
平成17年 (日野郡)	15.4 (36)	5.5 (13)	0.1 (0)	20.3 (48)	0.9 (2)	42.2 (100)	13.4	561	50	
平成18年	日南町	8.8 (32)	2.8 (10)	0.1 (0)	15.5 (56)	0.4 (1)	27.6 (100)	7.9	674	52
	日野町	2.1 (53)	0.5 (13)	0 (0)	1.3 (33)	0.1 (3)	4 (100)	1.5	270	35
	江府町	3.8 (51)	1.8 (24)	0 (0)	1.6 (21)	0.3 (4)	7.5 (100)	3	450	40
	郡計	14.7 (38)	5.1 (13)	0.1 (0)	18.4 (47)	0.8 (2)	39.1 (100)	14.2	594	52
	県計	160 (23)	169 (25)	77 (11)	220 (32)	59 (9)	685 (100)	218	622	61
平成19年 (鳥取県)	148 (22)	182 (27)	84 (12)	217 (32)	51 (7)	682 (100)	220	629	62	
平成20年 (鳥取県)	160 (23)	200 (28)	69 (10)	223 (32)	50 (7)	702 (100)	237	677	-	
平成21年 (鳥取県)	146 (22)	185 (28)	60 (9)	223 (34)	45 (7)	659 (100)	208	-	-	
平成22年 (鳥取県)	132 (20)	198 (30)	66 (10)	231 (35)	38 (6)	665 (100)	-	-	-	
平成23年 (鳥取県)	156 (23)	185 (27)	67 (10)	232 (34)	36 (5)	676 (100)	-	-	-	

出典:第53~58次、及び平成23~24年鳥取農林水産統計年報(中国四国農政局鳥取地域センター)
 なお、第56次から市町村別データは非開示。

日野郡農業産出額(平成18年度)



鳥取県農業産出額(平成18年度)



※ 農業産出額とは、農業粗生産額のこと。

森林・林業の現状と取組

(1)日野郡の森林の現状

○日野郡の林野面積は52,770haと総面積の88.0%を占めている。

○民有林のうちスギ・ヒノキ等の人工林は31,100haで、人工林率は62.1%である。

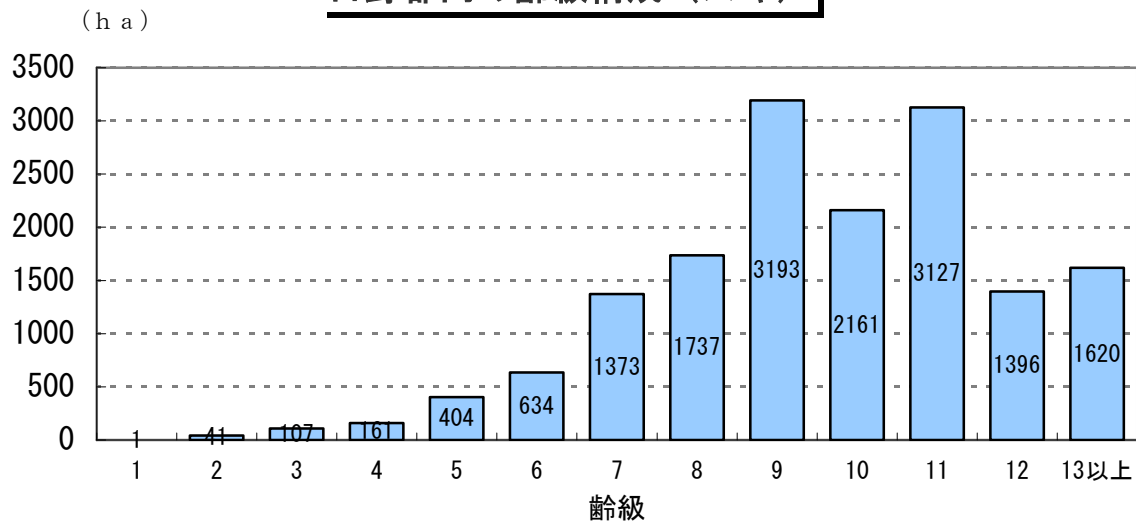
○スギ・ヒノキの人工林資源は7から11齢級に団塊的に存在しており、間伐等の保育とともに、資源の有効活用が求められている。

単位：ha、%

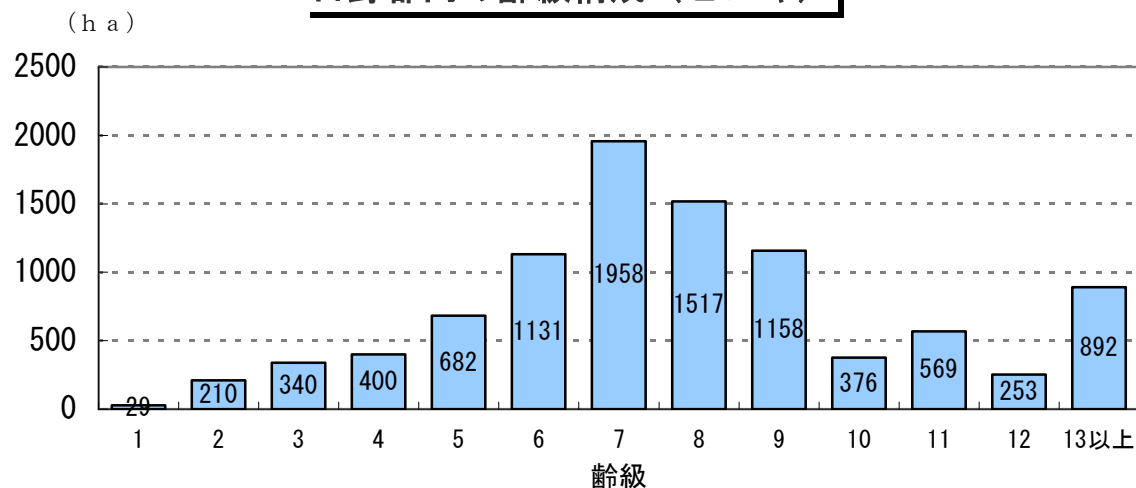
区分	土地面積	林野面積				民有林内訳			
		国有林	民有林	計	林野率	人工林	天然林	その他	人工林率
日南町	34,087	1,311	29,155	30,466	89%	18,301	10,554	300	63%
日野町	13,402	375	11,662	12,037	90%	8,027	3,430	206	69%
江府町	12,466	984	9,283	10,267	82%	4,772	4,260	251	51%
局計	59,955	2,670	50,100	52,770	88%	31,100	18,244	757	62%
全県	350,728	31,960	227,355	259,315	74%	123,423	96,630	7,302	54%

※出典：平成24年度鳥取県林業統計

日野郡内の齢級構成（スギ）



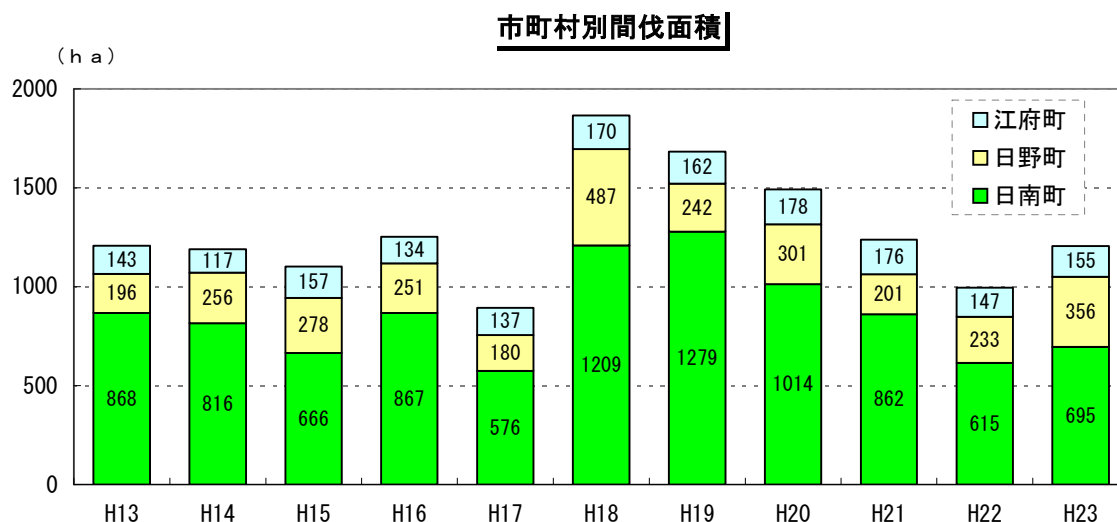
日野郡内の齢級構成（ヒノキ）



※出典：森林簿

(2)間伐の推進

- 森林の適正な管理を確保するため、間伐の推進に取り組んでいる。
- 間伐材の有効活用を推進するため、平成13年度から「間伐材搬出促進事業」(単県)を実施し、間伐材の市場への運搬・出荷経費に補助してきた。平成23年度日野郡では、対前年比139%の約7万m³の間伐材が搬出された。
- 「低コスト林業推進事業」(国庫・単県)等を活用することにより、搬出用機械の導入を支援し、搬出コストの低減を図っている。



※出典：農林業振興課業務資料

間伐材搬出促進事業の実績

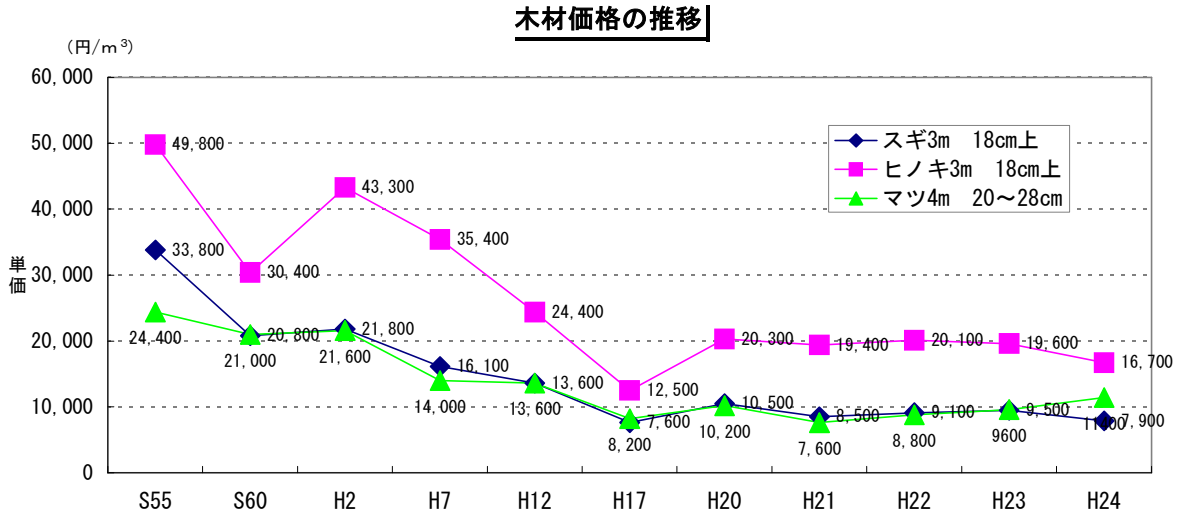
間伐材搬出促進事業の実績

		H13	H15	H17	H19	H21	H23	H24
日野郡	材積(m ³)	21,585	31,030	19,101	25,489	43,383	70,890	63,862
	金額(千円)	92,816	133,430	82,136	101,956	169,192	269,383	242,676
	県内シェア(材積%)	63	70	63	60	50	46	46
全県	材積(m ³)	34,212	44,173	30,485	42,226	86,600	154,120	139,186
	金額(千円)	147,111	189,941	131,086	168,905	337,739	585,653	528,734

※出典：農林業振興課業務資料

(3)木材価格の推移

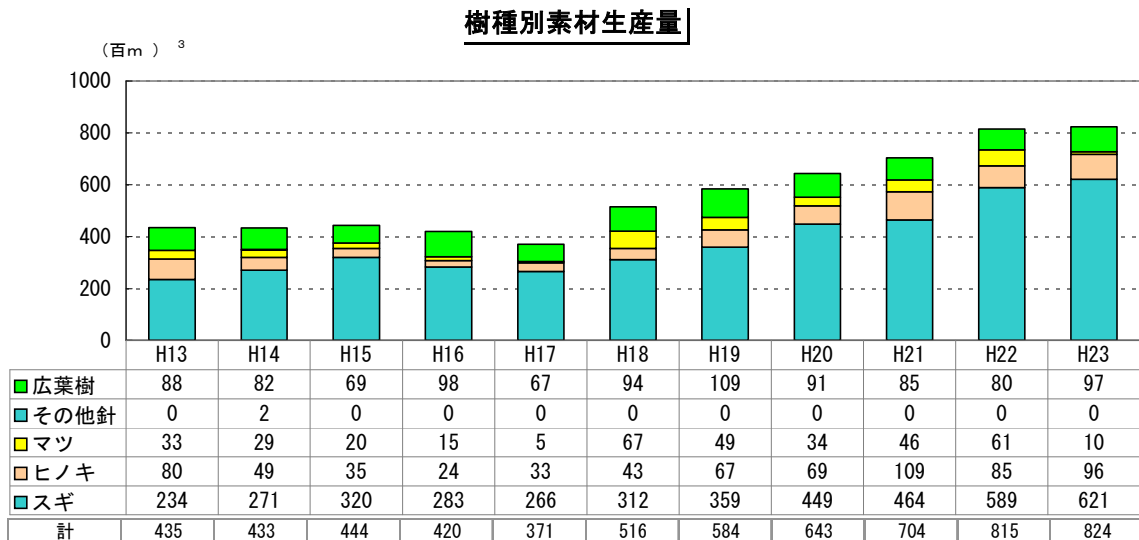
- 木材価格は最高値(昭和55年)の約1/3で推移している。
- 役物の需要減少、円高の影響により、価格が低迷している。
- 近年、針葉樹合板の原材料が外材から国産材にシフトするなどの傾向が進み、価格に底打ち感も見られたが、直近では、一般材の供給増、未曾有の不況の影響等を受け安値低迷が続いている。



※出典：平成24年度鳥取県林業統計

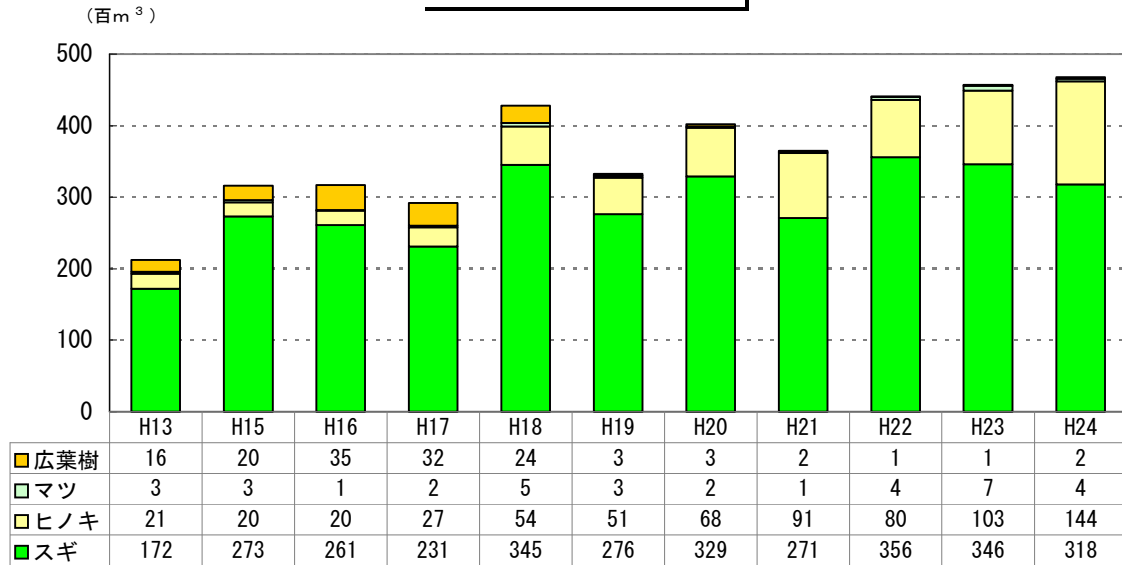
(4)地域材の供給

- 引き続き材価の低迷を受けて、主伐(皆伐)を控える傾向に依然変わりはなく、間伐材の生産が中心となっている。
- 日野郡の素材生産量は、「間伐材搬出促進事業」への積極的な取組により、H18頃から年々増加し、H22は8万m3を上回る生産量となった。これはS55以来のこと。
- 日野郡では、H20.4に操業を始めた株式会社オロチ(LVL製造工場)への安定供給を目指し、市場を介さないで直接納入するなど、定価格、安定出荷の取組も見られる。



※出典：平成24年度鳥取県林業統計

日野郡内木材市場取扱量



※出典：農林業振興課業務資料

(注) 日野郡内の原木の流れ 別添資料 1

(5)森林路網の整備

- 日野郡内では、路網整備の骨格となる森林基幹道3路線(宝仏山1号、宝仏山2号、窓山線)の開設を進めている。
- 「路網整備地域連携整備事業」(国庫)、林業再生事業(単県)等により、間伐など森林施業の推進や素材生産コストの低減に不可欠な作業路網の整備を進めている。

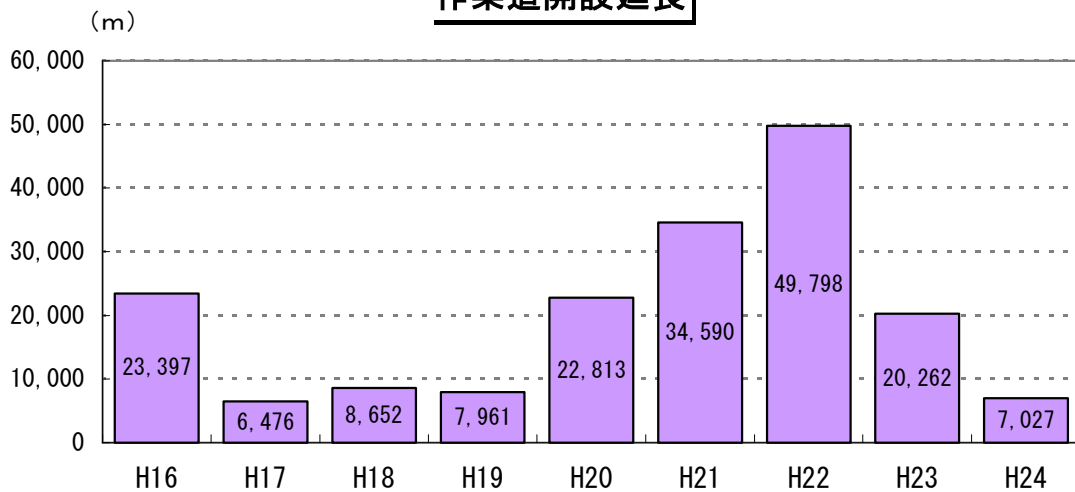
単位：m

路線銘	位置	延長	事業費 (円)	工期	開設済延長 (H24末)	開設計画 (H25以降)
森林基幹道 宝仏山1号	江府町俣野 ～武庫	6,900	2,322,365	H元～H28	4,756	2,144
森林基幹道 宝仏山2号	日野町金持	7,990	2,058,278	H元～H28	4,143	3,847
森林基幹道 窓山線	日南町新屋 ～上萩山	17,233	4,323,960	H8～H41	8,603	8,630

※出典：農林業振興課業務資料

○作業道は、平成22年度までは、補助事業による10/10助成により延長が伸びているが、平成23年度以降、助成がなくなったことにより、開設延長が伸び悩んでいる。

作業道開設延長



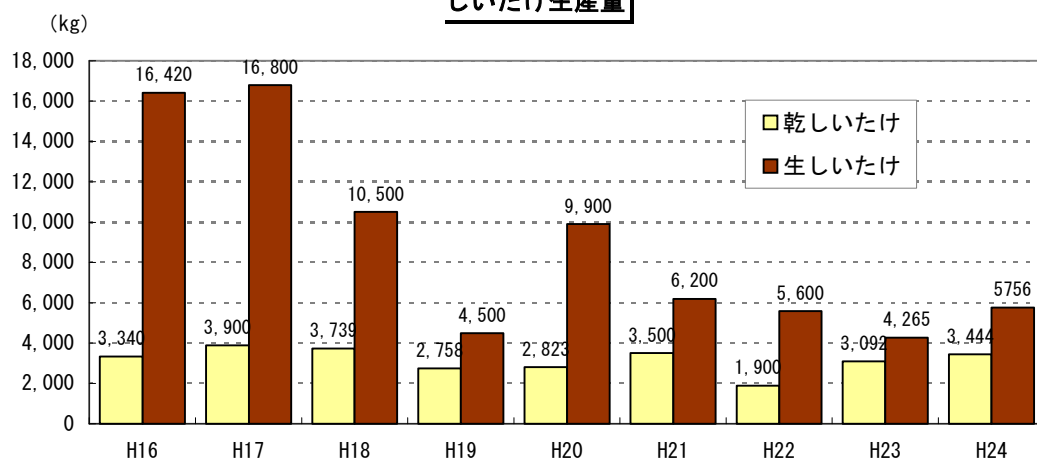
※出典：農林業振興課業務資料

(6)しいたけの生産

○乾しいたけ生産は、近年の自然健康食品の嗜好の高まりなどを受け、比較的高値で安定して推移していたが、東日本大震災による風評被害により価格が下落した。また、生産者の高齢化と後継者不足、原木入手の困難化などから、生産量は停滞傾向にある。

○生しいたけの生産量は、菌床栽培に企業が参入するなどの動きがあるものの、平成22年度までは減少傾向にあった。しかし、大口生産者の生産拡大、補助事業の導入により、平成23年度からは上向いている。

しいたけ生産量

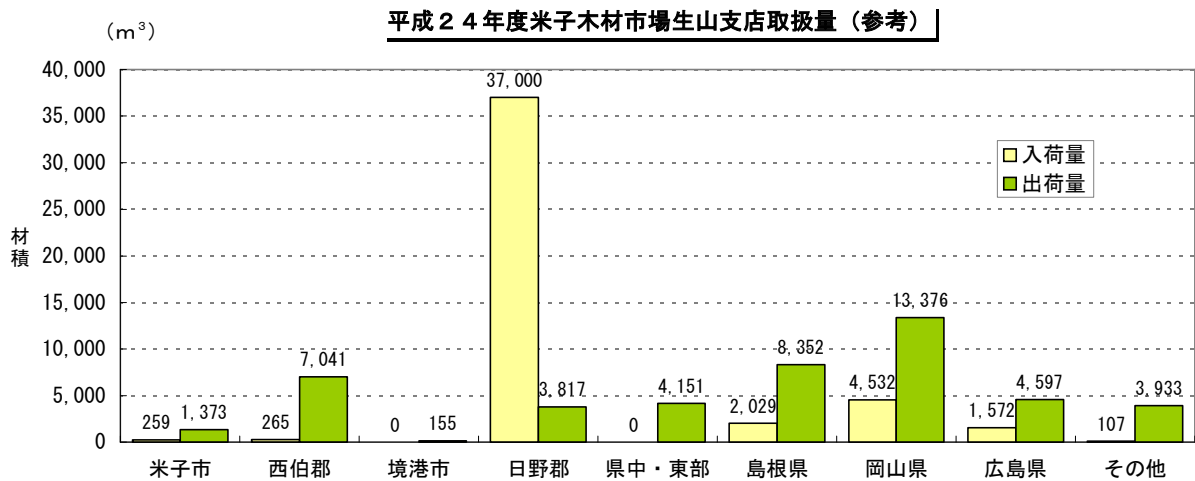


※出典：農林業振興課業務資料

(資料 1)

日野郡内の原木の流れ

- 米子木材市場生山支店の原木取扱量は、樹種別ではスギ68%、ヒノキ30%、広葉樹1%、マツ1%で、圧倒的にスギが多い。入荷先の79%（H24）が日野郡であることがその理由である。
- 出荷先（買い方）としては、西伯郡（レングス）、日野郡（オロチ）もあるが、その多くは岡山県、島根県、広島県等の県外となっている。合板用として境港市（日新）へも出荷が始まっている。
- この様な中で、平成12年から南部町で協同組合レングスがスギの三層クロスパネルの生産を始め、平成20年からは日南町でオロチによりLVLの生産が開始されたことにより、日野郡内で生産された木材が、県内で高次加工され、県外へ出荷される体制が整備された意義は非常に大きいものがある。



5 日野振興センター農林関係担当課 (平成25年10月現在)

